



マッターホルンと
その壮大な景色を楽しむ
観光客(ツェルマット/スイス)



2025年度
前期号

日々の授業を
さらにサポート!

CONTENTS

- 2 帝国書院 取材班が行く!
スイス
- 4 地図帳活用コトハジメ 山田 周二
地図帳から読み解く
「大阪平野の地形と人々の生活」
- 6 教育情報ナビゲート 永田 忠道
新課程における
共通テスト(地歴・公民科)の分析と
求められる力
- 9 研究最前線～歴史 指 昭博
歴史の捉え方の変化について
- 12 授業研究 地理 齋藤 晃
パエリアから見えてくるもの
～伝統とは何か～
－「生活文化の多様性と国際理解」に関する
授業展開例－
- 16 授業研究 歴史 虫本 隆一
「歴史総合」レリバンス構築を目指す
単元デザインの工夫
－「近代化と私たち」を事例に－
- 20 授業研究 公民 佐藤 豊記
金融教育について考える
- 24 徹底活用! ICT (取材編)
資料を読み取り、考え、知識を定着させる
「地理探究」の授業でのICTの活用
三田国際学園高等学校 福澤 友喜
- 26 もっと深めるGIS! 名倉 一希
地図帳とWebGISの併用で
捉える現代世界
- 28 キャッチ! 日本と世界の動き
- 30 地図のカフェテリア 今尾 恵介
国旗の由来はさまざま
- 31 あなたのお仕事 Focus on!
J-FLEC職員
金融経済教育推進機構

地歴・公民科資料

ChiReKo ちれこ

付録

- ① 世界の“NOW”を探る現地探訪
帝国書院取材班が行く!
スイスの自然と産業
地図帳活用コトハジメ付録ワークシート
- ② 地図帳を活用した「大阪平野の地形と人々の生活」に
関するワークシートの活用について 解説:山田 周二

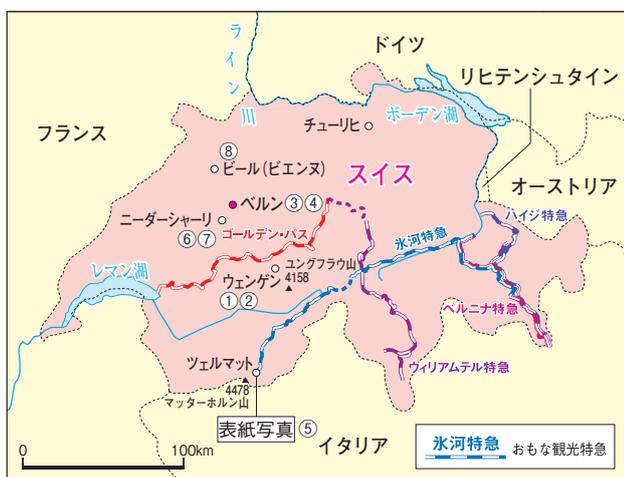


帝国書院



スイス連邦 基本情報 (2023年)

🏠 首都：ベルン 🧑 人口：約 881 万 🗺️ 面積：約 4.1 万km² 🌡️ 年平均気温：9.8℃ (チューリヒ)



今回の「帝国書院 取材班が行く！スイス」は、付録ポスター「スイスの自然と産業」との連動企画です。付録ポスターには、スイスの詳細な地図と共に本誌とは別の角度から、スイスの現在を伝えるレポートを掲載しています。ぜひ、併せてご覧ください。

2024年8月、取材班はスイスを訪れた。スイスと聞いてどんなイメージを持つだろうか。アルプスの山々、チーズ、チョコレート、『アルプスの少女ハイジ』…。実際に訪れることで見えてきた、スイスの現状を紹介していく。



山岳観光が盛んなスイス

スイスの最大都市はチューリヒだが、首都はベルンで、連邦議会議事堂などの行政機関が集まっている。U字型に湾曲して流れるアーレ川に囲まれた旧市街には、大聖堂や時計塔、彫像が美しい泉などが残り、世界文化遺産に登録されている (写真③④)。

スイスには、マッターホルン山やユングフラウ山など、4000mを超える数多くの名峰があり、氷河がつくり出した、雄大で美しい自然景観が広がる。スイスの平均標高は1300mを超え、取材班が訪れた日のチューリヒの最高気温は約26℃、最低気温は約16℃で、日中の日差しは強いが湿度は低く、朝晩は寒く感じられた。

スイスでは、登山やスキーなどの山岳観光開発が早くから進められ、登山鉄道やロープウェイなどが広く整備されている (写真①)。これらの交通機関を使って、手軽に標高4000mを超える場所に行くことができ、そこからの絶景を楽しむことができる。そのため、現在でも世界各地から多くの観光客が訪れる。かつては、日本からの観光客が多かったが、取材期間中に目にするのが多かったのは、中国や韓国、インド、中東諸国からの観光客である (表紙写真、写真②)。スイスが舞台となったドラマや映画の影響もあり、近年増加しているようだ。



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



自然環境を生かした人々の生活

マッターホルン山の麓に位置するツェルマットの伝統的な家は、この地域の自然環境を生かした材料が使われている（写真⑤）。柱や外壁は主にカラマツが、屋根は主に緑色片岩（緑泥石片岩）が使われ、窓辺に飾られた花が、道行く人の目を楽しませてくれる。なお、自然環境を守るため、ツェルマットを走る車は全て電気自動車に限られている。

また、スイスの産業といえば、酪農や時計づくりをイメージする方も多いだろう。これらの産業も、スイスの自然環境を生かした産業である。取材先の酪農家でも移牧を行っており、夏は標高約1200mの山の上で牛を飼い、冬は麓の町に下ろすそうだ。夏の期間は、山の上にあるチーズ小屋で、毎日、搾りたての生乳からアルプケーズなどのチーズをつくり、熟成させた後、クリスマスマーケットなどで販売するという。



冷涼な気候を生かしたスイスの食卓

気温が低く、また平坦地が少ないスイスは、野菜の栽培などには適さず、これらの多くは輸入に頼っている。スイスの伝統的な料理には、冷涼な気候でも栽培が可能なじゃがいもや、チーズをはじめとする乳製品を使ったものが多い。今回、取材した家庭では、ラクレッ

トをごちそうになった。ラクレットは、熱で溶かしたラクレットケーキと呼ばれるチーズをナイフでそぎ、蒸したじゃがいもにかけて食べる料理である（写真⑥⑦）。チーズフォンデュと並ぶ、スイスを代表する家庭料理の一つで、バーベキューのような感覚で庭先で行い、家族だんらんの時間を過ごしていた。



複数の言語が話される街

スイスには四つの公用語があり、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の順に話者が多い。取材班は、首都ベルンから北西に約25kmの位置にあるビール（ビエンヌ）という街を訪れた。ここは言語境界に位置する街で、ビールがドイツ語、ビエンヌがフランス語である。街なかにある標識やスーパーマーケットの営業時間を案内する看板も、二つの言語で表記されている（写真⑧）。スイス国内に、四つの言語が重なる街はないが、スイスの紙幣やパスポートなどには、四つの公用語を使った表記が見られる。

取材後記

スイス滞在中は比較的天気にも恵まれ、スイスの人々の心の温かさにも触れながら、充実した7日間を過ごすことができた。この経験を教科書・教材に反映し、スイスの“今”の姿を生徒たちに伝えていきたい。

写真：2024年8月撮影／帝国書院